



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,832戸
人口	12,018人
男	5,977人
女	6,041人
(令和7年3.1現在)	



福祉のついで

梓川地区福祉のついでが3月1日(土)に梓川福祉センターで開催されました。

第1部は、松本市立病院の理学療法士小林大起(おこし)さんを講師に「リラククス体操」を行いました。自律神経についての講習や、イスに座ったままできる10種類のストレッチを実践し、参加者はすっきりとした表情を見せていました。

第2部は、梓川小学校6年4組制作の映画「八面大王の逆襲」とふるさとCM大賞受賞作品の上映を行いました。会場に集まった100人以上の観客は映画の世界に引き込まれていました。

梓川地区 協の内田副会長は「体操はぜひ自宅でも健康増進に活かしてほしい。映画はとても素晴らしい内容で、あっという間の1時間だった。主体性

梓川小学校6年4組 制作映画

3月1日(土)
午前11時から
会場 梓川地区福祉広場
入場無料
主催 梓川地区社会福祉協議会



▲講師のかけ声とともにストレッチ

のある子ども達が梓川で育っていることを誇りに思う」と話してくれました。

信州梓川賞展

2月1日(土)から3月2日(日)に、梓川流域の自然や文化、行事を題材とした絵画の公募展「第24回信州梓川賞展」が、梓川アカデミア館で開催されました。

一般の部では72点、小中学生の部では775点の応募があり、最高賞の梓川賞には、豊嶋淳子(とよしまじゅんこ)さん(松本市)の「小灯がともし続けられる山里」が選ばれました。

松本市奈川の野麦街道沿い、旧入山宿の風景を描いた作品です。

豊嶋さんは30年ほど前からこの場所の絵を描いており、「集落の方が一生懸命手入れをして守っており、雰囲気のある良いところなので機会があれば訪れてみてほしい」と話していました。

審査員からは、「静かな懐かしさを感じる。人の営みが長く守られており、そういった願いが込められている作品だと感じた」と講評がありました。



▲小・中学生の部
最優秀賞「むしむししたい」
笹本 琉生さん(田川小1年)



▲梓川賞を受賞した豊嶋さん

岩岡町内公民館行事

今年、岩岡公民館では防災救命訓練、敬老会、クリスマス会などの行事を行いました。

防災救命訓練では、初期消火訓練・救急救命訓練を実施し、AED操作方法を梓川消防署員の方から指導いただきました。ゲーム人形で心肺蘇生を行い、防災・救命への認識を高めることができました。

敬老会はコロナ禍でしばらく中止していましたが、今年は落語家を招いて開催し、楽しい一時を過ごしました。コロナ明けで様々な行事が再開され、地域の親睦も更に深まり活気ある岩岡町会です。

▲信濃家 中蔵さんの落語



防災体験イベント

12月22日(日)安曇野市のエルサあづみ野で安曇野市消防団、松本市消防団梓川ブロック、松本広域消防局が協力して防災体験イベントを行い、多くの親子連れが訪れました。火災を想定して煙の中を進む煙道体験、消火器体験、地震体験車など参加者は楽しみながら防災を学びました。

松本市消防団第38分団長齋藤和亮さんは「イベントなど様々な機会を通じて消防団は地域の防災意識を高め、防災力向上を目指します」と力強く話してくれました。

◀安曇野市消防団 応援キャラクターのシヨウ君



◀はつぴを着て記念撮影



◀女性部の紙芝居



梓川地区の三九郎

小正月の伝統行事「三九郎」が、梓川地区の34箇所で行われました。

角影台町会

1月11日(土)に今年一年の無病息災を願う三九郎が行われました。育成会が櫓の組み立てを行い、子どもたちは保護者と町内を回って注連縄などを集め飾り付けを行いました。

三九郎の櫓に火が着けられ、火の勢いが落ち着くと繭玉などを焼いて頬張りました。今年も子どもたちの心に残る正月行事となりました。

大久保町会

1月11日(土)に三九郎が行われ、大久保グラウンドに未就学児から大人まで多くの人が集まりました。

少子化や、火を燃やすという危険性を伴うため、大人の関わる部分も増えています。小学生とPTAが集めた松飾りやダルマを添えて高々と組まれた櫓を燃やし、豊作や無病息災を願いました。

参加者は「子どもが少なくなっていく中でも、こうした昔からの地域行事がずっと続

いてほしい」と願っていました。

◀子どもたちが飾り付け(角影台)



◀炎に包まれるやぐら(大久保)



新任分団長あいさつ



第39分団 松田 賢 分団長

本年度、松本市消防団第39分団の分団長に就任しました松田です。

第39分団は、梓川東部に位置する横沢、氷室、岩岡の6町会を管轄しています。

消防団員は、自身の仕事をもちながら地域での自主防災機能を果たすべく、日々尽力しています。定期的に市民防火の日広報や、消火活動、防災活動などに奮闘しています。

近年は新たな担い手の確保が大きな課題となる中で、松本市消防団では、インスタグラムなどを活用し消防団活動の魅力を発信し、多くの方に活動を知っていただく広報にも力を入れています。

近年の状況から、今後はより一層自然災害への備えや対応が求められます。自分たちの町は自分たちの手で守る意識の重要性も高まっています。地域の安心、安全を守る活動に皆様のより一層のご理解、ご協力をお願いします。